

10 一声事例

ここでは「一声指導」の事例を紹介する。特別支援学校は、発達の段階及び障害種別等の実態に応じて活用していただきたい。

1 幼稚園における一声事例

生活安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
I-1 安全 登下校時の	① 友達と一緒に登下校すること。	「おうちの人と手をつないで、帰りましょう。」
	② 防犯ブザーを鳴らし、点検すること。	「怖くなったら、ブザーを鳴らしましょう。」
	③ 登下校時、どこがどのようなときに危険か確認すること。	「曲がり角や、駐車場の出入り口では、周りをよく見て歩きましょう。」 「園に来るまでの、危ない場所が言えますか。」
	④ 電車やバスに乗るときは、痴漢・すり等に注意すること。	「電車やバスに乗るときには、どんなことに気を付けたらいいですか。」
I-2 校内での安全	① 自分の身の回りを整えること。	「物につまづいて、転ばないためには、自分の回りをきれいにします。」 「部屋がきれいになると、どんな気持ちになるかな。」
	② 活動するときや遊ぶときのきまりや約束を守ること。	「すべり台で遊ぶときは、一人ずつすべりましょう。」 「園で遊ぶときのきまりを言えますか。」
	③ 道具や遊具などを大切に、正しい使い方をすること。	「はさみを持って歩くときは、めがねの形で（切る方を握って）持ちましょう。」 「大きな積み木を運ぶときは、二人で声を掛け合って運びましょう。」
	④ 廊下や階段の歩き方、運動場やプールでの運動の仕方など施設の安全な使い方について確認すること。	「階段では、手すりを持って一人ずつゆっくり降りましょう。」 「廊下の曲がり角は、相手が見えないですね。走っていたらどうなるでしょう。」
	⑤ 学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送」を知ること。	「放送で、『○○○○』という声を聞いたたら、悪い人が入ってきた合図なので、近くの先生のところに集まりましょう。」
	⑥ 不審者侵入時にとるべき行動を確認すること。	「すぐに近くの部屋に入って、先生のところに集まって、静かに待ちましょう。」
	⑦ 防犯教室の目的を確認し、主体的に参加すること。	「今日は、悪い人から身を守る練習をします。」
I-3 家庭生活での安全	① 家に帰って玄関を開ける前に注意することについて確認すること。	「悪い人が、みんながお家に入るところを見ているかもしれません。玄関を開けたら、すぐに鍵をかけましょう。」
	② 留守番をするときの約束を確認すること。	「家のチャイムが鳴っても、出なくていいです。本当に用事のある人はもう一回来てくれるからね。」
	③ エレベーターに乗る前と乗るときの「は・さ・み」の約束を確認すること。	「エレベーターは、おうちの人と一緒に乗りましょう。」 「エレベーターに乗るときの約束、『は・さ・み』を言えますか。」
	④ 非常階段や屋上など、人目につきにくい場所の危険について知ること。	「おうちの人が行ってはいけないと言うところには、絶対に行ってはいけません。」 「家の周りで、あまり人が来ない場所を知っていますか。」
	⑤ 友達の名前や電話番号などを知らない人から聞かれても応じず、すぐに学校へ連絡すること。	「知らない人に、声をかけられたら、その場所から離れましょう。」
I-4 地域や社会生活での安全	① 一人で行ってはいけない場所を確認すること。	「公園などでは、先生やお家の人が見えない場所で遊んではいけません。」 「一人で行ってはいけない場所を、おうちの人と決めていきますか。」
	② 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。	「自分より、背の高いものに囲まれた場所は、危ないところと思しましょう。」 「あまり人が来ない場所を知っていますか。」
	③ 「いかのおすし」の約束を確認すること。	「『いかのおすし』をみんなで言いましょ。」 「連れていかれそうになったら、大きな声で『助けて。』と叫びましょ。」
	④ 「子供110番の家」の場所を確認すること。	「このマークがある場所は、困ったときに助けてくれる場所です。」 「このマークがある場所を、おうちの人と探してみましょ。」
	⑤ 夜間の外出で注意することを確認すること。	「夕方、放送が聞こえたら、暗くなる前に家に帰りましょ。」
	⑥ 事件や事故に遭ったら必ず保護者、警察、学校に連絡すること。	「『いやだ、変だ』と思ったら、すぐに大人に知らせましょ。」 「怖いことに遭ったら、どうしますか。」
	⑦ 地域の犯罪防止活動を知り、自分にできることを考え、実行すること。	
	⑧ 山や海・川に行くときに注意することを確認すること。	「山や海・川へは、必ず大人と行きます。」 「海や川で危ないことには、どんなことがあるでしょう。」
I-5 使用時の安全 スマートフォン等の	① スマートフォンやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めよう。	「お家の人と、約束を決めましょ。」
	② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定しよう。	
	③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返そう。	
	④ 個人情報や教えたり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしない。	
	⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり拡散させたりしない。	
	⑥ 「ながらスマホ」は危険なのでやめること。	
I-6 生命(いのち)の安全教育	① 自分と相手の心と体を大切にすること。	「水着で隠れているところは、自分だけの大切なところ。」
	② 自分と相手を守る「距離感」を大切にすること。	
	③ 性暴力とは何かを知り、自分にできることを考え実行すること。	
	④ 被害に遭ったときの相談方法を知ること。	「体を触られて嫌な気持ちになったときは、どうしますか。」

交通安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用	① 道路における交通法規と安全な歩行の仕方を確認すること。	「車が通る場所から離れた道の端を歩きましょう。」 「車が走る道路では、どこを歩くといですか。」
	② 通学路の交通事情や通学方法に応じた安全な通学の仕方を確認すること。	「周りに気を付けて、歩いてきましょう。」 「園に来るまでに、信号機はいくつありますか。」
	③ 交差点を横断する際の危険について知り、安全な歩行の仕方を確認すること。	「信号機のない交差点を渡る時は、必ず車が来ないか確かめましょう。」 「車の運転手さんの顔を見て、大きく手を挙げましょう。」
	④ 青信号で横断歩道を渡る際は、すぐに渡らず左右の安全を確認すること。	「信号が青になっても、すぐに渡りません。必ず、『右、左、右』を見て、車が来ないか確かめてからにしましょう。」
	⑤ 雨や雪の日の安全な歩行の仕方を確認すること。	「傘を人に向けてないように、気を付けて持ちましょう。」 「寒くても、ポケットから手を出し、転んだときにすぐ手を出せるようにしましょう。」
	⑥ 明るい色の服装や反射材の効果を知ること。	「夜は、明るい色の服を着ていると目立って安全です。」
	⑦ 安全な集団歩行の仕方を確認すること。	「先生より、先に行かないようにしましょう。」 「友達との間が空かないように、前を見て歩きましょう。」
	⑧ 踏切事故の原因と非常ボタンの取扱いについて知ること。	「電車が通る『踏切』は、音が鳴ったら、渡りません。」
	⑨ 幼児や高齢者、障害のある人に対して、どのような配慮が必要か考えること。	「おじいちゃんやおばあちゃんには、道をゆずってあげましょう。」 「歩きづらそうにしている人がいたら、どうしたらいいでしょうか。」
	⑩ 公共交通機関利用時に想定される危険について考えること。	「乗り物の中では走ったり、立ち上がったりにないようにしましょう。」 「電車のホームでは、黄色い線の内側まで下がって待ちましょう。」
Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備	① 自転車の安全な利用の仕方を確認すること。	「広いところで、お家の人と一緒に練習しましょう。」 「自転車の安全な乗り方を知っていますか。」
	② 雨天時や夜間の安全な走行の仕方を確認すること。	「みんなは、雨の日や夜は、自転車に乗ってはいけません。」
	③ 自転車に関する基本的な交通法規を知り、必ず守ること。	「自転車でも信号を守ります。スピードも出してはいけません。」 「人が多いところでは、自転車から降りて、押して歩きましょう。」
	④ 自転車の点検と整備をすること。	「自転車がこわれていないか、おうちの人と一しょに確認しましょう。」
	⑤ 加害事故の責任と補償制度を知ること。	
	⑥ 自転車乗用時のヘルメットの必要性について考えること。	「自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶり、頭を守りましょう。」
Ⅱ-3 二輪車・自動車の特性と心得	① 車両事故の特徴を知り、安全な歩行や走行の仕方を確認すること。	「駐車場や止まっている車の近くで遊んではいけません。」 「車は急に止まれません。道路に飛び出さないようにしましょう。」
	② ヘルメットやシートベルトの効果を知ること。	「車に乗ったら、シートベルトをしましょう。車は、急にブレーキをかけることがあります。」
	③ 自動車の種類による死角と内輪差や、晴れの日と雨や雪の日の自動車の停止距離の違いなどを知ること。	「交差点で待つときは、道路よりもずっと下がって待ちましょう。曲がってくる車のタイヤに巻き込まれることがあります。」 「雨の日は、ブレーキをかけても、車は止まりにくくなります。」
Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活	① 地域の交通安全活動を知り、参加すること。	「みんなの安全を守るため、大人の人が交差点に立って、見守っていることを知っていますか。」
	② 交通事故が起こったときの通報や対応の仕方を知ること。	「近くにいる大人に、『助けて』と伝えましょう。」
	③ 応急手当の仕方を確認すること。	「けがをしたら、大人に知らせましょう。」
	④ 自分たちにできる交通安全活動を考え実行すること。	

	必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅲ-1 火災時の安全	① 「 おかしも 」の約束や避難経路、避難場所を確認すること。	「放送や先生の話聞いて、『おかしも』を守って避難しましょう。」 「避難する場所は、どこですか。」
	② 火災の原因と危険について知ること。	「火事の時、モクモクしている煙を吸うと、とても苦しくなって、息ができなくなってしまいます。とても危険です。」
	③ 火災に対する心構えと安全な行動の仕方を確認すること。	「火事を見つけたら、『火事だ。』と大きな声で大人に知らせましょう。」 「煙は上に集まります。姿勢を低くして、アヒル歩きで避難しましょう。」
	④ 初期消火の方法を確認すること。	「火事するとき、燃えているところに絶対に近付きません。」
Ⅲ-2 地震災害時の安全	① 緊急地震速報の利用の心得を確認すること。	「この音は、もうすぐ地震が来ることを知らせる音です。」 「この音を聞いたら、落ちてきたり、倒れてきたりする物のない場所で身を守ります。」
	② 地震発生時の危険について知り、対処の仕方を確認すること。	「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を見つけて、ダンゴムシのポーズをとりましょう。」 「ピアノの下や明かりの下は安全でしょうか。」
	③ 集団で避難するときの「 おかしも 」の約束を確認すること。	「今から避難します。避難の時の約束を覚えていますか。『おさない、かけない、しゃべらない、もどらない』です。」
	④ 避難経路、避難場所を確認すること。	「このマーク（誘導灯）は、避難する目印のマークです。」
	⑤ 家庭での地震の備えについて考えること。	「家の中で、ものが、『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所はどこでしょうか。おうちの人と話してみましょう。」
Ⅲ-3 時の安全 火山災害	① 安全な避難場所と避難の仕方を確認すること。	「火山が噴火したら、建物の中に避難しましょう。」
	② 火山活動による危険を知ること。	「火山が噴火すると、火山灰が降ってきます。吸うと苦しくなります。」
Ⅲ-4 気象災害時の安全	① 風水害のときの危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「台風のときは、物が飛んでくるかもしれないので、外に出てはいけません。」 「川の水が急に増えるので、雨がやんでも川に近付かないようにしましょう。」
	② 落雷に遭わない安全な行動の仕方を確認すること。	「雷が鳴ったら、近くの建物の中に入りましょう。」
	③ 竜巻発生時の危険について知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「竜巻が起きた時は、近くの建物に逃げましょう。」
	④ 降雪時の安全な登下校の仕方を確認すること。	「道路が凍っています。ゆっくりと歩きましょう。」 「いつもより、車に注意しましょう。」
	⑤ 落雪が起る仕組みや雪害の影響について知ること。	「屋根に積もった雪が落ちてくる可能性があります。屋根のすぐ下は歩かないようにしましょう。」
	⑥ 特別警報等、気象災害に関する情報について知り、活用すること。	
Ⅲ-5 時の安全 原子力災害	① 原子力災害による放射線放出と安全対策について知ること。	
	② 放射線の身体への影響について知ること。	
Ⅲ-6 貢献 避難所の役割と	① 避難所の役割を知ること。	「みんながおうちに帰れないときに、おうちの代わりにしてくれるところです。ここで寝たり、ご飯を食べたりします。」
	② 避難所の生活を知り、自分たちにできることを考えること。	「避難所では、みんながお仕事をしています。あなたは、どんなお仕事ができるか、考えてみましょう。」
	③ 災害ボランティア活動に積極的に参加すること。	「自分にできること（ごみを拾う、お皿を配る等）を考えてやってみましょう。」
	④ 避難所となる学校や公的機関は、どのような備えがあるのかを知ること。	「避難所になる場所には、食べ物や布団があります。」
Ⅲ-7 災害の備えと安全な生活	① 地域の避難訓練・防災訓練に積極的に参加すること。	「今日学んだことは、みんなの命を守るとても大切なことです。学んだことをおうちの人に伝えましょう。」
	② 家庭での連絡方法を家族と相談し、決めること。	「おうちの人のお名前、おうちの電話番号を言えますか。」
	③ 家庭での災害に対する備えに積極的に関わること。	「避難袋とは何か、知っていますか。中に何が入っているのでしょうか。」
	④ 応急手当の仕方を確認すること。	「けがをして、びっくりしたかもしれないけど、大丈夫です。傷口を触らないようにしましょう。」 「けがをしているところや痛いところを伝えられるようにしましょう。」
	⑤ 消防・警察・自治体等の公助の役割を理解すること。	「消防士さんは、どんなお仕事をしているのでしょうか。」
	⑥ 消防団や自主防災組織の役割について知ること。	「消防団は、地域に住む大人がやっています。」
Ⅲ-8 弾道ミサイル 発射時の安全	① Jアラートを通じて緊急情報が流れること。	
	② 安全な避難場所と避難行動を確認すること。	

園の実態に応じた、オリジナル「一声指導」を考えよう

「危険を予測し回避する能力」と、「他者や社会の安全に貢献できる資質や能力」を育てるために、子供たちにどのような一声を掛けますか。

安全に関する知識を習得させる一声や、危険を予測し、判断する力を育てる一声、日々の生活において安全に生活しようとする意識を高める一声など、園の子供たちのことを思い浮かべながら、一声指導を考えてみましょう。

	一声指導
生活安全	
交通安全	
災害安全	

※一声事例の内容を、A4判一枚にまとめた指導資料が東京都教育委員会ホームページに掲載してあります。週ごとの指導計画（週案簿）等に貼るなどして活用することができます。